ENEOS SuperTaikyu SERIES 2022 Rd.6

Powered by Hankook

#31 Race Report

apr
Racing Constructor

ENEOS SuperTaikyu SERIES 2022 Rd.6

Powered by Hankook

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook 第 6 戦

開催地：岡山国際サーキット（岡山県）／ 3.703km

10 月 15 日（予選）天候：晴れ
コースコンディション：ドライ　観客数：3,200 人

10 月 16 日（決勝）天候：晴れ
コースコンディション：ドライ　観客数：5,000 人

apr Racing Constructor

ENEOS SuperTaikyu SERIES 2022 Rd.6

Powered by Hankook

歯車が噛み合わなかった岡山ラウンド。最終戦につなげる意地の６位完走！

2022 年も apr はスーパー耐久シリーズにおいて、
３シーズン目となる ST-X クラスに、FIA-GT3 車両の「DENSO LEXUS RC F GT3」で戦う。
第６戦の舞台は岡山国際サーキット
ドライバーは A ドライバーに永井秀貴選手、そして今回 B ドライバーに
2022 年全日本スーパーフォーミュラ・ライツ　シリーズチャンピオンを獲得し、
その勢いを買われた小高一斗選手を起用。C ドライバーに嵯峨宏紀選手という布陣で挑む。
モビリティリゾートもてぎが舞台の第５戦では、予選こそ６番手だったが、
決勝では展開にも恵まれ、一時はトップを走行。
しかし、中盤から抱えていたブレーキの不調が足かせとなり、ポジションを最後まで守れず。
５位でのゴールとなっていた。
その結果、チャンピオン獲得には首の皮一枚残す状態にはなったが、
残る２戦で「優勝」を目指し、全力を尽くしていく。
なお、今回は２グループに分けられ、３時間で決勝が競われる。

apr Racing Constructor

公式予選　10 月 15 日（土）15:00～

多くのチームがスポーツ走行が設けられた木曜日から走行を開始するも、
今回の「DENSO LEXUS RC F GT3」は金曜日の専有走行から走行を開始。
レースウィークの岡山国際サーキットは天気にも恵まれ、セットアップも順調に進んでいくものと思われた。
ところが、最初のセッションは 7 番手、トップとは 1 秒半も遅れていた。
次のセッションで、タイムを詰めこそしたが、差は縮まらず。
最後のセッションでようやくほぼ 1 秒差とするも、ウェイトハンデも 20kg に過ぎない状況において、不可解でさえあった。
そこで徹底的にチェックを行った結果、入念にオーバーホールしてきた部品の誤組みが明らかに。
正規の組付けを行い施されて臨んだ、土曜日午前のフリー走行では、その効果はてきめん。
1 分 31 秒 284 にまで詰めて 3 番手につけ、トップとの差もコンマ 4 秒となった。
その後、予選開始まで時間があったことから、さらにセッティングに手は加えられていく。
この季節としては高めの気温だったこともあり、A ドライバー予選に臨んだ永井選手は、計測 2 周目からアタックを開始。
まず 1 分 33 秒 176 を記した後に、1 分 32 秒 666 をマーク。
クールダウンを挟んで、さらに 3 周走るもタイムアップはならず。それでも 6 番手につけた。
続く B ドライバー予選には小高選手が担当。
やはり計測 2 周目からアタックを開始、1 分 30 秒 605 でその時点での 4 番手につける。
さらにコースを攻め立て、次の周には 1 分 30 秒 116 にまで短縮、ラストアタックでは 1 分 29 秒 993 をマークするまでとなり、
3 番手に躍り出ることとなった。
合算タイムでは「DENSO LEXUS RC F GT3」は 6 番手となり、また C ドライバー予選では、嵯峨選手が 20 分フルに走り続けて、
決勝に向けたセットをさらに詰めることに。
1 分 32 秒 366 で 6 番手ながら、ユーズドタイヤでの走行で、しかもコンスタントにタイムは刻まれていた。

永井秀貴選手
昨日とマシンの雰囲気も大きく変わり、慣れるまでの時間も費やしたことから、思ったようなタイムが出せなかった。
昨日と違うアンダーステアが出ているコーナーをうまく攻略できず、コントロールが難しいところはありました。
僅差ではあるんですが 6 番手だったので、チームのみんなに申し訳なくあります。
昨日の夜まで頑張ってセットアップしてくれたんですが。決勝に向けて頑張っていきます。

小高一斗選手
金曜日はチームのミスによるトラブルで結局、今日の 30 分しかセットアップの時間が取れず、
予選に対して全然アジャストしきれていなくて、秀貴さんにちゃんとした車を渡せませんでした。
僕も全然まともなアタックできなかったです。もうちょっと上には行けたと思いますが、
秀貴さんも僕も、RC F 自体のポテンシャルも、まだあったと思うので、残念です。

金曽裕人監督
嵯峨選手に決勝セットをやってもらって、一発の速さは小高選手にやってもらおうと、方針を変えました。
実際、小高選手は 3 番手まで行ったんですが、朝の 40 分しかないフリー走行でのセットアップしかできず
幅が狭くなってしまったというのがあって、永井選手には乗りづらい車になってしまった。
昨日、まともに走らせられず、セットアップを進められてないというのがあったので、まる 1 日遅れているのは確かです。
その中でも、C ドラ予選で嵯峨選手に少しは決勝セットを進めてもらったので、明日はそれなりに行けると思います。

決勝レース　10 月 16 日（日）13:30〜

今年のスーパー耐久は、天候変化に悩まされることが多かったが、
今回はレースウィーク通じ、絶えずドライコンディションが保たれた。
本来ならば、決勝前に最終確認を行いたいところだが、今回は２グループ開催のため、日曜日にフリー走行は実施されず。
グループ 1 の決勝レース進行は 13 時から開始された。
決勝がスタートして間もなく、「DENSO LEXUS RC F GT3」のセットに外しがないことが明らかになる。
スターティングドライバーの嵯峨選手がグリーンシグナルの点灯後、１コーナーで１台を、そしてアトウッドでも１台をかわして、
オープニングラップのうちに 4 番手に躍り出たからだ。
その後も嵯峨選手は後続を抑えて周回を重ね、またトップ車両がペナルティを受けたことで、18 周目には 3 番手に浮上する。
スタートから 50 分ほど経過した 32 周目に、永井選手と交代した「DENSO LEXUS RC F GT3」は順位を維持したまま
中盤戦を迎えるが、コースインの次周に 1 コーナーで痛恨の接触をしてしまい、操舵系に大きなダメージを負ってしまった。
まともにレーシングスピードで走れる状況ではないこともあって 61 周目には 6 番手に後退していた。

#31 Race Report

決勝レース　10 月 16 日（日）13:30〜

ゴールまで 1 時間 20 分を切った 63 周目に代わった小高選手は、ダメージを感じさせない走りをその後も見せていたが、
76 周目に突然ピットイン。
それまでダメージに耐えていたパーツが、小高選手のペースに耐え切れず、折れてしまったためだ。
ピットに戻れたのは、不幸中の幸いでもあった。修復には 10 分近くの時間を要し、それでも何とか戦列に復帰。
1 台が重大なトラブルで大きく周回数も離れていたことから、6 番手はもはや確定。
そこで 85 周目には、もう一度ピットに入ってセット変更。更にその数周後にもセット変更の為にピットイン。
すべては最終戦に向けた“詰め”のためだった。
トップとは 10 周遅れとなる 103 周を走破して、結果は 6 位。
わずかながら残っていたチャンピオン獲得の希望は断たれたものの、最終戦に向けた準備は早くも整えられた。
残す戦いは、11 月 26〜27 日に鈴鹿サーキットで開催される。
今回、重ねざるを得なかった苦労は、すべて最後に笑うため。すっきりとシーズンを終えられることを望むばかりだ。

永井秀貴選手
ピットを出てから早々に、他車と接触しステアリングにダメージが出て、
まともに走れない状況になったまま 50 分間の自分のスティントで、
大きく順位を落としてしまいました。
応援くださっている関係者の皆様、
嵯峨選手、小高選手、チームのみんなに申し訳なく。
次回は最終戦の鈴鹿ですので、今回のことをしっかり考察して、
最高のレースを目指します。

小高一斗選手
時間に追われ、セットが進まず決勝もベストな状態には持っていけませんでした。
RC F は、まだまだ速く走れるけれど、セットが見つけられなかったのが悔しいです。
鈴鹿では、きっと速いはずだし、最終戦は勝ちに行きます。
秀貴さんの接触もありましたが、とりあえずそれは置いといて、
僕に代わってから行けるなら行ってと言われて、そのまま走ったんですが、
全然無理な厳しい状況でした。
更に 30 分も経たないうちにダメージ受けていた部品が壊れてしまった。
交換をしてからは問題がなかったので、セット変更をしたいと言ってピットに入って、
最終戦に向けて、セットをいろいろやっていたという感じです。
鈴鹿は、今回のようなことが無いようにチームとともに全力尽くします。

ENEOS SuperTaikyu SERIES 2022 Rd.6

Powered by Hankook

嵯峨宏紀選手

今回はスタートを担当して、うまく前に行くことができたんですが、
アストンマーティンとポルシェのペースがちょっとずつ速くて、
まんべんなく離されたという印象でした。
後ろから来ていた GT-R に対してはセクター 1、セクター 2 はいいんですが、
W ヘアピンからのスローセクションが厳しくて、ベタベタに着かれても、
外周で離せたから抜かれずに済みましたが、前の２台を追い詰めるまでには至らず、残念でした。
このところ今ひとつ、自分でも乗れていないのを感じていたんですが、
今回のレースウィーク通じて、自分のドライビングは修正することができました。
鈴鹿に向けて努力して、いい状態にしていきたいと思います。
RC F も岡山より鈴鹿に合っていると思うので、最後まで頑張りたいと思います。

金曽裕人監督

今週はトラブルから始まり、時間に追われるだけの状況となり
流れを全然つかめず、という状況でした。
ドライバーにも申し訳なく、セットが定まらない難しい状態でレースをさせてしまった。
初日のトラブルに対して、事前にチームとしてのケアが足りなかったことが反省です。
嵯峨選手も素晴らしいスタートダッシュを決め、期待できるレース展開でしたが、
レース全体で言うと、車側のセットが追いついていなかったので、接触が無かったとしても、
目指す優勝には届かなかったです。
金曜日から始まった悪い流れは、僕らのミスからであり、それが全て……。
最終戦の鈴鹿は木曜日から走り込み流れに乗って、有終の美を飾ります！

#31 Race Report

apr Racing Constructor